

「小中学校の交流を図る中で、地域の様子や子ども達の様子を知り、  
連携して塩山中学校区の子ども達を育てていく」

## I. 主題設定の理由

「地域で子どもを育てよう」の考えをもとに地域に開かれた学校づくりが進められている現在、学校現場においても小学校・中学校の連携の必要性が高まり、連携が進められてきている。塩山中学区ブロック交流研究会においても、小学校・中学校の教職員が共通理解を深め、同一の課題意識のもと、子どもたちの育成にあたる必要がある。そのため、小学校・中学校の交流を進め、地域や子どもの様子を知り、教育活動を実践していく。

## II. 研究の具体的内容

### 1. 第1回ブロック交流研究会「Q-Uについての学習会及び各校校内研究の報告」

(1) 日時 8月6日(月) PM1:30~4:00

(2) 目的 ・Q-Uについての理解を深め、学年・学級経営に役立てる。  
・各校の校内研究の内容を知り、連携を深める。

(3) 内容

ア 学習会 「学級づくり ～Q-Uを活用して～」

講師 藤原 祐喜 教諭(塩山中学校)

イ 各校校内研究の概要の説明

(4) 成果等

学習会ではQ-Uについて、①実践事例の報告、②指導者側にできること、③K13法を用いた分析法などについて、講師の藤原先生にていねいに説明していただいた。甲州市の「確かな学力育成プロジェクト」と関わり、今後の取り組みに非常に役に立つ内容であった。また、各校の校内研究の概要の発表も行われ、他校の課題や取り組みの様子も知ることができた。

### 2. 第2回ブロック交流研究会「塩山北小学校授業公開」

(1) 日時 11月14日(水) 授業公開(参観) 14:00~14:45  
分科会による研究協議 15:00~15:50  
全体協議 16:00~16:45

(2) 目的 塩山北小学校の授業の様子を他校の教職員が参観し、児童の様子を確かめたり、適切な指導方法について考えたりする話し合いを通し交流を図る中で、塩山中学区の課題を明らかにし、連携した教育実践を進める。

(3) 内容

ア 塩山北小学校の授業の様子を参観する。

イ 分科会に分かれて授業内容や柱立てした話し合いを通して交流する。

ウ 全体会で指導方法や課題点等を検討する。

(4) 成果等

塩山北小の「金銭教育公開研究会」に合わせ、実施した。金銭教育やキャリア教育

が主な内容であったが、小学校における金銭教育・キャリア教育の指導内容や方法への理解が深まった。また中学校で行われるキャリア教育との連携を深める意味でも、非常に意義のある授業及び研究会であった。

### 3. 第3回ブロック交流研究会「塩山中学校授業公開及び講演会」

(1) 日時 1月23日(水) 授業公開 14:00～14:50  
交流会 15:00～16:00

- (2) 目的
- ・塩山中学校の授業の様子を他の小学校の教職員が参観し、交流を図る中で塩山中学区の課題を明らかにし、連携した教育実践を進める。
  - ・グループエンカウンターやソーシャルスキルを学習し、よりよい集団づくりを図る。

#### (3) 内容

ア 塩山中学校の授業(全クラス公開)の様子を参観する。

イ 講演 「学級経営に活かすグループアプローチ」

～構成的グループエンカウンター&学級ソーシャルスキル～

講師 品田笑子 先生 (都留文科大学特任教授)

#### (4) 成果等

- ・塩山中学校の授業を参観し、生徒の様子や重点的に取り組んでいることへの理解が深まった。またあいさつや学習規律など小中で連携していくべき部分の共通理解が図れた。
- ・講演会を通して集団づくりに有効なスキルを学習することができた。

## III 成果と課題

### (1) 成果

- ・小学校(塩山北小)、中学校(塩山中)の授業参観を行い、児童・生徒の様子を確かめたり、研究会の場で質問や意見を交換したことにより、ブロックの研究テーマである連携して子ども達を育てていくことに大いに役立った。
- ・第1回ブロック交流では塩山中の藤原祐喜教諭を講師に、Q-Uについての学習会を行った。市の「確かな学力育成プロジェクト」とリンクしたものだが、その後の取り組みに役立った。また当初の計画とは異なったが、第3回ブロック交流でも、都留文科大学の品田笑子先生を招き、ソーシャルスキルについて学習した。この学習会では、学年・学級経営にすぐに役立つ演習も取り入れられ、参加者にも好評であった。

### (2) 課題

- ・臨池研修について、毎年でなくてもかまわないが、教員が地域を知り、教育活動に役立てていくためにも続けてほしいという声がある。
- ・今年度は学習会が多くなり、勉強になったが、小中で情報を交換する時間が少なかった。3回のブロック研究のいずれかの時間でもう少し情報交換をしていきたいという要望も見られた。
- ・ブロック交流の日と教育センターの発表日が重なっていた。ブロック交流に参加できない者も出てきてしまったので調整できるとよい。

(ブロック長 伊藤 淳司)